



あした

明日もしあわせ通信 (第93号) 令和6年3月

介護にエールを

久万高原町に住む91歳の母。
昨年1月に車の運転をあきらめてもらったのだが、急に認知が進み5月に役場から入院を勧められ、認知症の皆さんが入院する施設に入った。面会のたびに「なんでここにおるんや、かえる」と泣きながら荷物をまとめてついでくる。母をこのままにはできない、自分で見るしかない。と6年目を迎えた職場に、無理をお願いして7月末で退職させていただいた。

毎日働いている妻と3人の介護生活が始まった。住民票も移し、実家の片づけを2か月かけて行った。昔のことを現実のように話す母「かあちゃんはいまどこにおるんや」食事したことも忘れ「まだあさめし食べとらん」など、この現実を受け入れるのに時間がかかった。介護は大変だとは聞いてはいたが現実は甘くない、疲れる。

ケアマネさんから、デイサービスの提案をいただいた。昼食や風呂の世話、多くの人たちとの交流がありがたい。週3日9時に送り出し、4時に迎えるという生活が始まった。送り出す前も戦いである。迎えが来る前に食事もしないで勝手に外に行く。デイが休みの日に、歩いて施設に行ったり、近所の人が歩いている母を施設に

連れて行ってくださったりしたこともある。目を離れた私は、右往左往しながら探し回る。デイから帰っても寝てくれるまで、さらに、寝ても朝を迎えるまで戦いは続く。熟睡はできない。

私は、7月に皆さんから退職のお祝いをしていただいたのに、10月よりデイサービスの3日間10時~15時まで、前の職場でパート勤務させていただいている。職場の皆さんには迷惑をかけっぱなしである。そんなことで1年ぶりに「しあわせ通信」を書かせていただいている。

2023年激動の1年であった。母だけでなく71歳になった私も「古い」と深くかかわり「古い」を見つめる1年となった。老いてもなお「生涯青春」の気概だけは持ち続けたいと願うのだが。現実と向き合う自分との戦いは続く。負けるな自分。

介護にかかわっておられる皆さんにもエールを贈りたい。「お疲れ様です、がんばってください」と。
(K・D)



教育支援教室「はばたき」

進学や進級を控えた教室生にとっての一年間を振り返ってみました。

- ① 学習面では、「スタディタイム」での学習習慣が身に付きました。各教科のワークを使って問題を解いたり、タブレットを活用して漢字検定や社会科の問題でランキングに参加したりするなど、自ら学ぶ意欲が感じられました。
- ② スポーツタイムでは、バドミントンのゲームを通して打ち方が上達しました。当初は打ち合いが続きませんでした。徐々に相手の位置や動きに応じて強い打球や前に落とす打球を打てるようになりました。その他、ふれあいタイム、休憩時間でのカードゲームや調理実習などで友達と一緒に活動する楽しさを体感し、交流を深めることができました。



この一年間で心身ともにたくましく成長した教室生が自信をもって諸活動に取り組み、自分の夢や目標に向かって更にはばたいてくれることを願っています。
(T・S)

教育支援教室に関する相談は、遠慮なくご相談ください。

TEL (089-989-5022)

教室専用携帯 (080-2974-4581)

子育てで大切なこと

～ 子育てで大切なこと ～

- 1、きちんと睡眠をとらせよう。
- 2、こどもの好奇心を大切にしよう。
- 3、こどもの脳を興奮させすぎないように気をつけよう。
- 4、こどもが安心して育つことができるように、こどもを見守ろう。
- 5、3歳までがとても大事なので、この時期はこども中心の生活を大切にしよう。
- 6、こどもの多様性、こどもの凸凹を受け入れよう。
- 7、こどもに合った教育を選ぼう。
- 8、こどもに無理を強いるのを避けよう。
- 9、こどもの迫害体験や挫折体験をできるだけ減らそう。
- 10、社会全体でこどもを育てていこう。

「子育てで一番大切なこと 愛着形成と発達障害」 杉山登志郎著

少子化が止まらないと言われて何年にもなります。少子化対策として「こどもまんなか社会」になるように政策が打ち出されています。

実際にこどもを育てるのは大変です。毎日お世話をしないと命に関わりますから。愛情を持って関わり、愛着形成を目指していきたいですね。

児童精神科医の杉山先生の本から子育てで押さえておきたい10ポイントを紹介します。

大人に余裕がないとなかなか難しいとは思いますが、心にとめておきたいですね。周りに頼れる人や場所が

あれば迷わず頼ってください。

こどものために…。

(A)



《おおぞら通信》

第2回茶話会(保護者会)を開催します!

2024年を迎え、はや1か月が過ぎました。能登半島地震での復旧・復興がまだまだ進んでいない現実に、心が痛みます。被災された方々が一刻も早く平常の生活を取り戻すことができることを願うばかりです。



さて、「おおぞら」では、昨年の12月に施設利用者の第1回保護者会を開催しましたが、引き続き、第2回保護者会を3月8日(金)に開催します。前回の会では、子育てについての疑問や悩み、体験談等について、お茶を飲みながら、和やかな雰囲気でお話し合いました。その中で、互いに刺激を受け合い、新たな気づきもあったようです。今回も「パート2」を実施することで、さらに情報を共有し、その輪を広げていきたいと考えます。結果、保護者同士の連帯感が深まり、新たな考えや意欲につながり、子育ての一助となることを願っています。

「おおぞら」では、お子様の不登校や引きこもりへの支援をしています。困ったり、悩んだりしている保護者の皆様、一人で悩まず、まずはお電話でのご相談をお待ちしております。

(T・M) (☎ 989-5014)

発達支援巡回相談

みんな大人に

早いもので、この仕事に就いて8年が過ぎました。たくさんの先生や保護者、子ども達に出会うことができました。

保育所でトラブルをおこし、心配をされていた子がもう中学生になり、読書が好きでいつも本を読んでいると巡回相談の先生からお聞きすると成長したなあ嬉しくなりました。

「どの子もみんな大人になる。」仕事を始めたときに尊敬する同僚の先生から教えたもらった言葉です。当たり前のことなのですが時が経つと実感できます

問題を起こして行動が心配、発達が心配、気になる子はどの園でも耳にしますが、成長し、大人になることを楽しみに、関わったり見守ったりしていきたいものです。

(A)



伊予市こども家庭センター

伊予市総合保健福祉センター2F

☎989-6226
